令和6年度第3回 宮崎県バス利用促進協議会資料

県民アンケートの分析結果について

令和6年(2024年)10月21日(月)

(1)「現在の利用者」によりバスを利用してもらう

- ➡ 【問】よりバスを利用するには
 - ①運行本数が増えたら(225)
 - ②停留所が使いやすくなったら(98)
 - <u>③運賃が安くなったら(92)</u>
 - ④ノンステップバスが導入されたら(65)
 - ⑤時間帯が変更されたら(48)

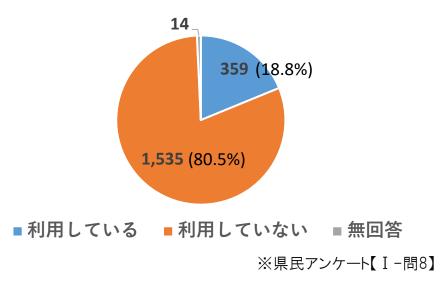
※県民アンケート【Ⅱ-問4】

(2)「非利用者」にバスを利用してもらう

- ▲ 【問】どうすればバスを利用するようになるか
 - ①自分で運転ができなくなったら(1,147)
 - ②運行本数が増えたら(418)
 - ③家族等の送迎がなくなったら(413)
 - ④運賃が安くなったら(234)
 - ⑤お得なクーポンがあったら(166)

※県民アンケート【Ⅲ-問3】

【問】現在バスを利用しているか(n=1,908)



- 運行本数の増、運賃の値下げなどは、現在の 運転士不足や物価高の中では容易ではない。
- 非利用者の多くは、自家用車を使えない状況 にならなければ、バスを利用しない。



圏域ごとのアンケート結果の特性から、 ターゲットや取組を設定できないか

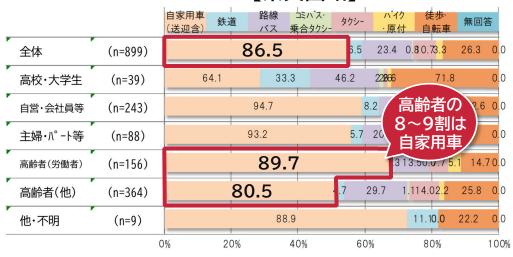
(1) 自家用車に依存した生活実態

【問:普段の移動手段について】

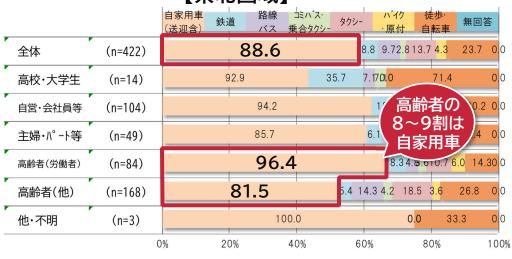
※県民アンケート【 I -問1】

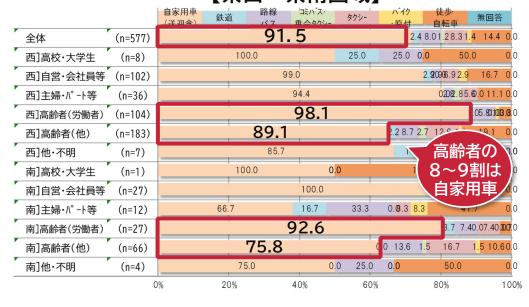
- 各圏域ともに<u>自家用車の割合が約9割</u>となって おり、高い自家用車依存がうかがえる。
- 近年高齢者の交通事故増加等が問題視されている る高齢ドライバーの割合も高くなっている。
- ➡自家用車からバスへの転換を促すために 免許返納促進等を含めた利用促進が必要

【県央圏域】



【県北圏域】



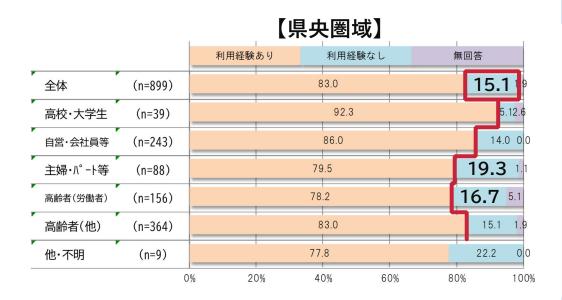


(2) バスを利用したことがない県民の存在

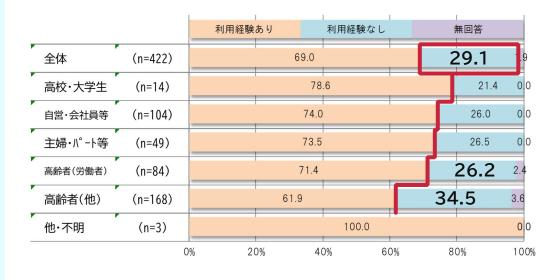
【問:バスの利用経験について】

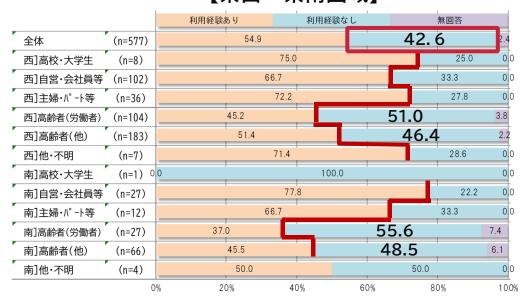
※県民アンケート【 I -問3-1】

- これまで1度も利用経験がない方の割合は、 県央で約15%、県北で約29%、県西・県南 で約42%と地域ごとに差異がある。
- 県西・県南では特に高齢者の割合が高い。
- → 適度に賢くバスを使ってもらうために 利用するきっかけづくりの提供が必要



【県北圏域】



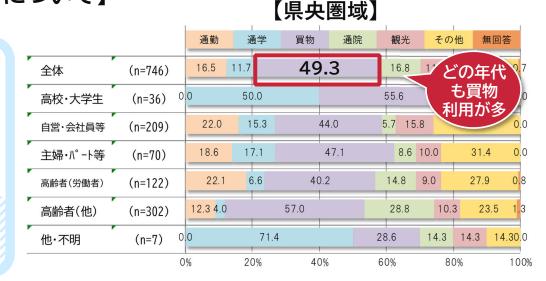


(3) 買い物・通院等によるバス利用

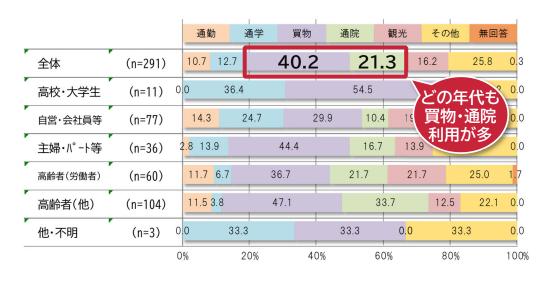
【問:バスの利用目的(利用経験がある方を対象)について】

※県民アンケート【Ⅱ-問1-1】

- 利用経験がある方のバスの利用目的については、各圏域とも買い物の割合が高くなっている。
- 次いで通院が高くなっており、学生等では通学 利用も見受けられる。
- →施設連携によるお出かけ企画やインセンティブの付与等による利用促進が必要



【県北圏域】





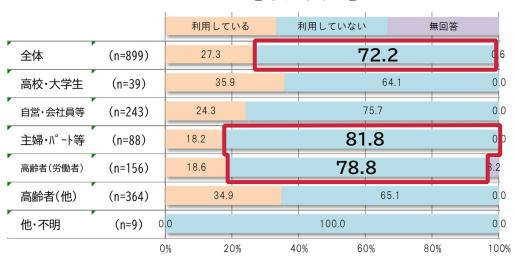
(4) 低いバスの利用状況

【問:現在のバスの利用状況について】

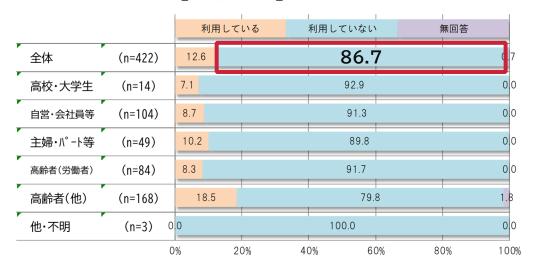
※県民アンケート【 I -問8】

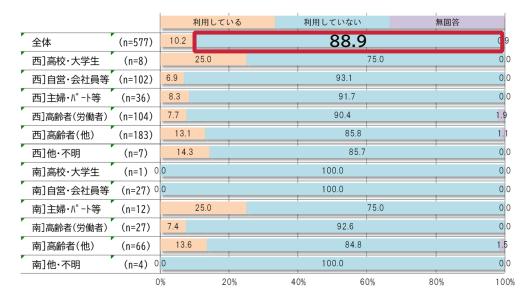
- 現在、県央圏域では全体の7割程度、県北及び 県西・県南圏域では8割強の方が利用していな いと回答。
- 県央圏域では、主婦等・高齢者の利用率が低い 状況である。
- ➡主婦等・高齢者を対象にバス利用の目的 を創出した利用促進を図ることが必要

【県央圏域】



【県北圏域】



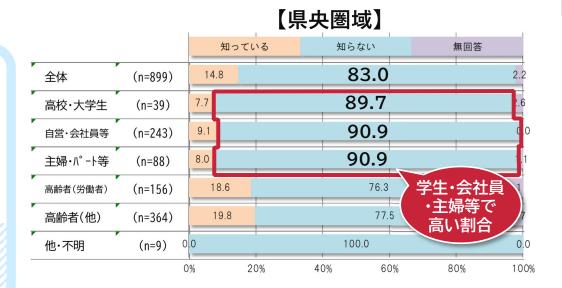


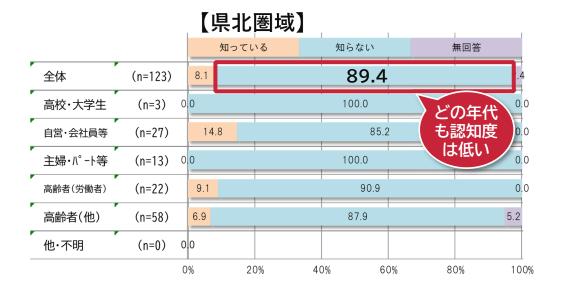
(5)乗り方教室の低い認知度

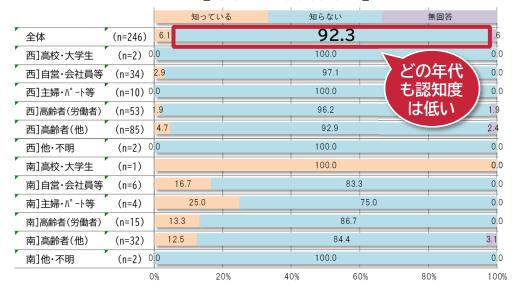
【問:乗り方教室の認知度について】

※県民アンケート【 I -問4-1】

- 各圏域とも、乗り方教室を知らない方が全体の8 割~9割存在している。
- ◆ 特に県央圏域では、学生や会社員・主婦等で割合が高く、バスの利用方法を知らない方も存在していることが予想される。
- ➡バスの乗り方教室だけでなく人が集まる 他のイベントとあわせた利用促進が必要







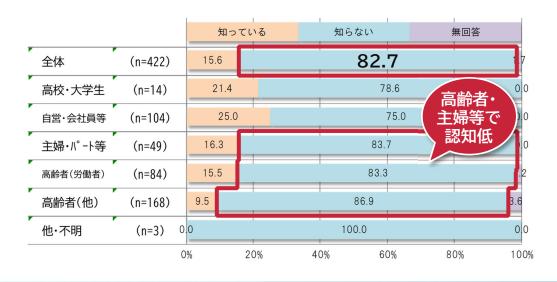
(6) バスロケーションシステムの低い認知度

【問:バスロケーションシステムの認知度について】

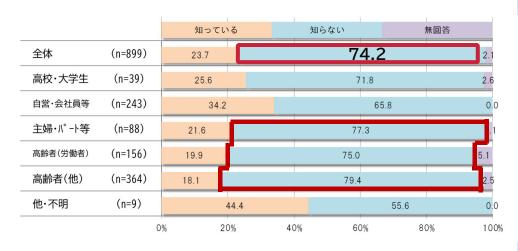
※県民アンケート【 I -問5】

- 各圏域とも、バスロケーションシステムを知らない方が全体の7割~8割程度存在している。
- ◆ 特に県央・県北圏域では、高齢者や主婦等で割合 が高く、バスの利用方法を知らない方も存在して いることが予想される。
- ➡経路検索や時刻表、バスの接近情報が わかる基礎情報ツールのPR・周知が必要

【県北圏域】



【県央圏域】





(7) モバイル乗車券の低い認知度

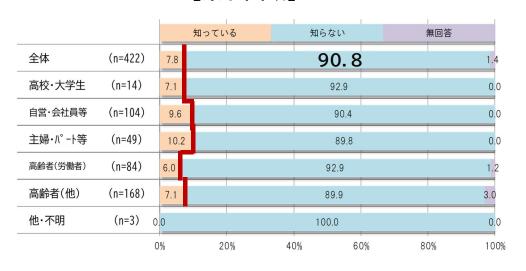
【問:モバイル乗車券の認知度について】

※県民アンケート【 I -問6】

- ●「1日乗り放題乗車券」「ホリデーパス」などのモバイル乗車券の認知度については、各圏域ともに、知らない割合が全体の8割以上となっており、県北圏域では9割を超えている。
- → 利用するうえでお得となる乗車券(my route含む)の周知・PRの強化が必要

【県央圏域】 知らない 無回答 知っている 81.3 全体 16.5 2.2 (n=899)20.5 76.9 2.6 高校·大学生 (n=39)74.9 00 25.1 自営・会社員等 (n=243)17.0 80.7 2.\$ 主婦・パート等 (n=88)11.5 82.1 6.4 (n=156)高齢者(労働者) 86.0 12.1 1.9 高齢者(他) (n=364)77.8 00 22.2 他·不明 (n=9)0% 20% 60% 80% 40% 100%

【県北圏域】





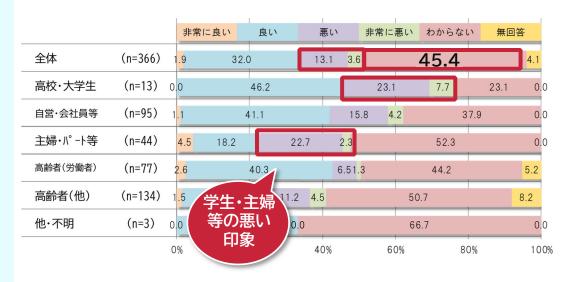
(8) 時刻表のわかりづらさ

【問:時刻表のわかりやすさに関するイメージについて】

※県民アンケート【Ⅲ-問2-⑤】

- バス非利用者において、各圏域ともに<u>全体の1</u> <u>割程度の方がイメージが悪い</u>と回答。
- また、各圏域ともに「わからない」の回答が多く、 移動手段としてバスへの関心が低いことが想定 される。
- ▶バス利用の前提となる運行情報に関する わかりやすい情報案内・周知が必要

【県北圏域】



【県央圏域】



		非常に良い	良い	悪い	非常に悪い	わからなし	* 無回答
全体	(n=513) ¹	.0 31.8		11.3 1.6		48.3	5.0
西]高校·大学生	(n=6)	16.7	16.7	16.7 0.0		50.0	0.0
西]自営·会社員等	(n=95) 1	.1 29.5		16.8 1.1		50.5	1.1
西]主婦・パート等	(n=33) ⁰	.0 39	9.4	6.10.0		54.5	0.0
西]高齢者(労働者)	(n=94) ⁰	.0 34.0		8.5 2.1		51.1	4.3
西]高齢者(他)	(n=157) ¹	.3 34	.4	10.2 0. <mark>6</mark>		43.9	9.6
西]他·不明	(n=6) ⁰	.0 16.7 0.0	16.7		60	6.7	0.0
南]高校·大学生	(n=1) 0	.0		100.	.0		0.0
南]自営·会社員等	(n=27) ⁰	.0 33.3		25.9	0.0	40	.7 0.0
南]主婦・パート等	(n=9) 0	.0 33.3			44.4		11.1 11.1 0.0
南]高齢者(労働者)	(n=25) ⁰	.0 32.0		8.00.0	Ę	6.0	4.0
南]高齢者(他)	(n=56)	.8 21.4	1.83.6		53.6		17.9
南]他·不明	(n=4) 0	.0	50.0	0.0		50.0	0.0
	0	% 2	0%	40%	60%	80	1009

(9)路線図のわかりづらさ

【問:路線図のわかりやすさに関するイメージについて】

※県民アンケート【Ⅲ-問2-⑥】

- バス非利用者において、各圏域ともに全体の1 割~2割程度の方がイメージが悪いと回答。
- また、各圏域ともに「わからない」の回答が多く、 移動手段としてバスへの関心が低いことが想定 される。
- ➡バス利用者の視点にあわせた路線情報等を示すわかりやすい情報案内が必要

【県北圏域】



【県央圏域】



	身		良い悪い	非常に悪い	わからない	無回答
全体	(n=513) 0.6	23.0	15.2 0 8	54	1.4	6.0
西]高校·大学生	(n=6)	16.7	16.7 0.0	6	6.7	0.0
西]自営·会社員等	(n=95) ^{0.0}	20.0	23.2 0.0		55.8	1 <mark>.</mark> 1
西]主婦・パート等	(n=33) 0.0	24.2	12.1 3.0		60.6	0.0
西]高齢者(労働者)	(n=94) 1.1	27.7	12.8 0.0		54.3	4.3
西]高齢者(他)	(n=157) 0.6	24.2	12.1 0.6	52.9)	9.6
西]他·不明	(n=6) 0.0	16.7	16.7 0. <mark>0</mark>	6	6.7	0.0
南]高校·大学生	(n=1) 0.0			100.0		0.0
南]自営·会社員等	(n=27) 0.0	18.5	33.3	0.0	48.1	0.0
南]主婦・パート等	(n=9) 0.0	22.2	33.3	11.1		33.3 0.0
南]高齢者(労働者)	(n=25) 0.0	24.0	12.0 4.0	Į	6.0	4.0
南]高齢者(他)	(n=56) 0.0	19.6	5. 4 0. <mark>0</mark>	57.1		17.9
南]他·不明	(n=4) 0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0
	0%	2	0% 40%	60%	80	0% 100%

【アンケート結果のまとめ】

- 全体を通してみると、圏域ごとの大きな特性はあまりみられなかったものの、一部項目では、回答者 の属性ごとの特性がみられた。
- また、「バスの利用経験」、「現在のバス利用」とでは、県央圏域で利用者数が多く、県北、県西・県南で 少なくなっている。

【取組の方向性】(共通)

1 バスを1度でも使ってもらうためのきっかけづくり

- ○現在バスを利用していない方の割合が高く、バスを1度も利用した経験がない方も存在 (高齢になるほど利用したことがない割合が高くなる)
- ○時刻表や路線図などについて、「知らない」「わからない」という回答が多く、移動手段としてバスへの関心 が低い可能性

2 買い物行動にあわせたバスの利用促進

- ○バスを1度でも利用したことがある方について、利用の目的では「買い物」が多い
- ○「my route」を含むお得なモバイル乗車券の認知度が低い

3 わかりやすい情報発信・県民の目に触れる機会を増やすPR

- ○バスを利用していない方において、「時刻表及び路線図のわかりやすさに関するイメージ」が悪い割合が比較的高い
- ○バスの接近情報が分かるバスロケーションシステムの認知度が低い